

(様式 1-3)

双葉地方水道企業団帰還環境整備事業計画 帰還環境整備事業等個票

平成 28 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	4	事業名	双葉町中野地区復興産業拠点への水道管整備事業	事業番号	(2)-19-3
交付団体	双葉地方水道企業団		事業実施主体 (直接/間接)	双葉地方水道企業団 (直接)	
総交付対象事業費	12,540 (千円)		全体事業費	352,540 (千円)	
帰還環境整備に関する目標					
<p>町域の 96%が帰還困難区域に指定されている双葉町は、「双葉町復興まちづくり長期ビジョン (平成 27 年策定。以下「長期ビジョン」という。)」により、町域の 4%の避難指示解除準備区域から双葉駅周辺の比較的線量が低い地域にかけてのエリアを「町内復興拠点」と定め、当該エリアを中心に復旧・復興事業を重点的に進めていくこととしている。</p> <p>同ビジョンでは、町内復興拠点の中でも特に、避難指示解除準備区域であり、かつ、津波リスクが低い中野地区を「復興産業拠点」として位置付けており、福島第一原子力発電所との近接性等も踏まえ、廃炉・除染・インフラ復旧等に従事する事業所の先行立地を図るほか、廃炉に関わる研究機関等を誘致することとしている。また、当該区域に就業者を対象とした商業・生活関連サービスを担う事業者の立地を図るとともに、復興祈念公園との連携も考えながら施設整備を進め、復興産業拠点を町の復興の先駆けとなる複合的な機能を持った拠点として整備を計画している。</p> <p>双葉町の上水道は、楡葉町の小山浄水場から双葉町の双葉配水池へ送られ、同配水池から町内へ配水されていたが、震災・原発事故で長期避難を余儀なくされたことにより、長期間に渡り上水道施設の適切な維持管理が出来ていない。こうした中、現行の水道管を利用して送水した場合、漏水事故などにより安定的な給水が行えず、復興産業拠点における企業操業に支障をきたすおそれがある。</p> <p>このため、町内の配水管の調査を行った上で、双葉町の復興の先駆けとなる復興産業拠点への安定給水を行うことにより、復興産業拠点の安定した運営を図り、もって、双葉町の復興を加速することを目標とする。</p>					
事業概要					
<p>復興産業拠点への水道管整備として、下記事業を実施する。</p> <p>① <u>上水道測量・調査・実施設計委託</u> 12,540,000 円</p> <p>中野地区復興産業拠点へのインフラ整備の一環として、配水管の新規布設工事等による配水系統の整備を行うため、測量・調査・実施設計を行うもの。</p>					
当面の事業概要					
<p>&lt;平成 28 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中野地区への配水管等の測量、調査、実施設計委託</li></ul> <p>&lt;平成 29 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・JR横断部及び河川部の測量、調査、実施設計委託</li><li>・配水管布設工事</li></ul> <p>&lt;平成 30 年度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・配水管布設工事</li></ul>					
地域の帰還環境整備との関係					
<p>上記の取り組みにより、安定的に水を供給することで復興産業拠点として必要な機能を充足させ復興を加速化させることに寄与する。</p>					

**関連する事業の概要**

[中野地区復興産業拠点アクセス道路整備事業（福島県）]

復興産業拠点の整備と合わせて、常磐自動車道に新たに整備される双葉インターチェンジ（仮称）と国道6号を結ぶ、県道井手長塚線の整備が計画されている。

[中野地区復興産業拠点整備事業（排水設計）]

中野地区の復興拠点としての機能を十全ならしめるため、同拠点内のインフラ環境整備に向け、排水関連の基本設計を行う。

[中野地区復興産業拠点整備事業（調整池等整備）]

中野地区の復興拠点としての機能を十全ならしめるため、同拠点内のインフラ環境整備に向け、調整池等の基本設計を行う。

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

**関連する基幹事業**

事業番号	
事業名	
交付団体	
<b>基幹事業との関連性</b>	